



2023年9月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2023年2月10日

上場会社名 株式会社スプリックス 上場取引所 東
 コード番号 7030 URL https://sprix.jp
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 常石 博之
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員管理部長 (氏名) 設楽 征史 TEL 03(6912)7058
 四半期報告書提出予定日 2023年2月10日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2023年9月期第1四半期の連結業績（2022年10月1日～2022年12月31日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年9月期第1四半期	7,718	2.4	750	△40.9	752	△40.8	454	△44.1
2022年9月期第1四半期	7,537	133.1	1,269	70.8	1,272	71.3	811	61.4

(注) 包括利益 2023年9月期第1四半期 451百万円 (△44.0%) 2022年9月期第1四半期 807百万円 (62.4%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年9月期第1四半期	26.31	25.80
2022年9月期第1四半期	47.38	45.88

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年9月期第1四半期	20,147	9,933	49.1
2022年9月期	19,574	9,774	49.8

(参考) 自己資本 2023年9月期第1四半期 9,894百万円 2022年9月期 9,739百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年9月期	—	19.00	—	19.00	38.00
2023年9月期	—	—	—	—	—
2023年9月期（予想）	—	19.00	—	19.00	38.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2023年9月期の連結業績予想（2022年10月1日～2023年9月30日）

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	30,777	4.9	1,226	△55.9	1,240	△55.4	674	△58.0	39.32

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
新規 ー社（社名）ー、除外 ー社（社名）ー

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2023年9月期1Q	17,630,250株	2022年9月期	17,487,150株
② 期末自己株式数	2023年9月期1Q	340,785株	2022年9月期	345,285株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2023年9月期1Q	17,257,166株	2022年9月期1Q	17,134,359株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。

また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P3「1.当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご参照ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(会計方針の変更)	8
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

文中の将来に関する事項は、当第1四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、ウィズコロナの下で経済社会活動の正常化が進む一方、物価の上昇や世界的な金融引き締めによる海外景気の下振れ、これに伴うわが国景気の下押しリスクに、十分注意する必要がある状況となっております。

当社グループの属する教育サービス業界におきましては、少子化が進むなかで、様々な教育制度改革が進行しております。

また、新型コロナウイルス感染症の影響を起因とし、あらゆる産業でアナログからデジタルへの転換、サービスの在り方が見直されるなか、IT技術の活用等による新たな教育・指導形態の必要性も一層高まってきております。

中核事業である個別指導形式の学習塾「森塾」におきましては、当第1四半期連結会計期間末において191教室（前年同期比16教室増）展開しておりますが、その内訳は、株式会社スプリックス運営が146教室（前年同期比16教室増）、株式会社湘南ゼミナール運営が45教室（前年同期比増減なし）であります。入塾はコロナ禍以前の水準に回復傾向にあり、かつ退塾率は減少傾向にあることから堅調な推移となりました。

これらの結果、当第1四半期連結会計期間末における「森塾」在籍生徒数は44,721人と株式会社湘南ゼミナールの運営する「森塾」と合わせ、前年同期比2,442人増となりました。その内訳は、株式会社スプリックス運営が35,186人（前年同期比2,187人増）、株式会社湘南ゼミナール運営が9,535人（前年同期比255人増）であります。

集団指導形式の学習塾「湘南ゼミナール」におきましては、当第1四半期連結会計期間末において182教室（前年同期比3教室増）を展開しております。新型コロナウイルス感染症が冬期に再拡大した影響、及び2022年春の合格実績が軟調であったことなどから、当第1四半期連結会計期間末における「湘南ゼミナール」在籍生徒数は20,595人（前年同期比1,317人減）となりました。

講義映像とチューターを用いた大学受験指導を行う学習塾である「河合塾マナビス」におきましては、当第1四半期連結会計期間末において株式会社湘南ゼミナールがフランチャイジーとして49教室（前年同期比2教室増）を展開しております。新型コロナウイルス感染症再拡大の影響、及び大学入試における推薦入試等の伸張の影響などにより、当第1四半期連結会計期間末における「河合塾マナビス」在籍生徒数は5,200人（前年同期比472人減）となりました。

なお、当第1四半期連結会計期間末における主な学習塾ブランドごとの売上高、セグメント利益、教室数及び生徒数は以下のとおりであります。

	森塾	スプリックス		湘南ゼミナール	河合塾マナビス
		運営	湘南ゼミナール 運営		
売上高（注1）	4,025百万円	3,184百万円	840百万円	2,362百万円	774百万円
セグメント利益（注1、2）	1,025百万円	824百万円	201百万円	469百万円	78百万円
EBITDA（注3）	1,080百万円	851百万円	228百万円	554百万円	120百万円
2022年12月末現在教室数	191教室	146教室	45教室	182教室	49教室
2022年12月末現在生徒数	44,721人	35,186人	9,535人	20,595人	5,200人

注1）売上高は外部顧客への売上高、及びセグメント利益は、セグメント間取引の相殺前の数値であります。

注2）セグメント利益は、のれんを除く無形固定資産の償却費を反映しております。

注3）EBITDAは、営業利益+支払利息+減価償却費であります。

「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、「新規事業（研究開発費等を含む）」、「自立学習RED」、「そら塾」、教育関連サービス（フォレスタシリーズの販売、「東京ダンスヴィレッジ」、「和陽日本語学院」、「プログラミング能力検定」の運営）等を含んでおります。

「自立学習RED」は、教育ITを利用した学習塾であり、当第1四半期連結会計期間末において直営5教室（前年同期比増減なし）、FC196教室（前年同期比28教室増）を展開しております。

また、「その他」に含まれる教育関連サービスにおきましては、個別指導用教材「フォレスタシリーズ」、ICTを活用した映像教材「楽しく学べるシリーズ」、塾講師募集webサイト「塾講師JAPAN」などの既存事業がいずれも好調だったことに加え、AIタブレットで基礎学力を養成する「DOJO」や、株式会社サイバーエージェントグループと協業中の「キュレオプログラミング教室」「プログラミング能力検定」などの新規事業も順調に拡大しております。さらに、スプリックス基礎学力研究所による国際基礎学力検定「TOFAS」も、実施国数及び受験者数が順調に増加しております。

当第1四半期連結累計期間は、新規事業や研究開発に対し、積極的な投資を行い、計画に対して順調に進捗いたしました。引き続き、学習塾サービスとの相乗効果を最大限に発揮するための投資、研究開発を積極的に進めてまいります。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は7,718百万円（前年同期比2.4%増）、営業利益は750百万円（前年同期比40.9%減）、経常利益は752百万円（前年同期比40.8%減）、親会社株主に帰属する当四半期純利益は454百万円（前年同期比44.1%減）、EBITDA（＝営業利益+支払利息+のれん償却+減価償却費）は1,043百万円（前年同期比32.5%減）となりました。

（2）財政状態に関する説明

（資産）

当第1四半期連結会計期間末における総資産は、20,147百万円（前連結会計年度末比573百万円増）となりました。主な要因は、現金及び預金が185百万円減少したものの、未収入金が642百万円増加したことなどによるものであります。

（負債）

当第1四半期連結会計期間末における負債は、10,214百万円（前連結会計年度末比414百万円増）となりました。主な要因は、未払金が513百万円増加したことなどによるものであります。

（純資産）

当第1四半期連結会計期間末における純資産は、9,933百万円（前連結会計年度末比158百万円増）となりました。主な要因は、親会社株主に帰属する四半期純利益454百万円による増加の一方で、配当金の支払325百万円による減少などによるものであります。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想については、2022年11月11日の「2022年9月期 決算短信」で公表いたしました業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年9月30日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,935	5,749
売掛金	241	263
商品及び製品	363	514
仕掛品	43	69
貯蔵品	29	30
未収入金	2,198	2,841
その他	814	732
貸倒引当金	△40	△49
流動資産合計	9,586	10,151
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	3,004	3,015
土地	450	450
その他(純額)	125	154
有形固定資産合計	3,581	3,620
無形固定資産		
のれん	2,827	2,744
ソフトウェア	196	194
その他	1,251	1,168
無形固定資産合計	4,275	4,106
投資その他の資産		
投資有価証券	25	25
繰延税金資産	446	423
敷金及び保証金	1,593	1,741
その他	66	78
貸倒引当金	△0	△0
投資その他の資産合計	2,131	2,268
固定資産合計	9,987	9,995
資産合計	19,574	20,147

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年9月30日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	136	181
未払金	1,272	1,785
1年内返済予定の長期借入金	363	363
未払法人税等	591	305
未払消費税等	176	418
前受金	4,142	3,610
賞与引当金	451	366
その他	480	1,070
流動負債合計	7,614	8,102
固定負債		
長期借入金	1,090	999
役員退職慰労引当金	71	72
退職給付に係る負債	115	120
資産除去債務	907	919
繰延税金負債	0	0
固定負債合計	2,184	2,112
負債合計	9,799	10,214
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,431	1,438
資本剰余金	1,421	1,428
利益剰余金	7,266	7,404
自己株式	△385	△380
株主資本合計	9,734	9,889
その他の包括利益累計額		
退職給付に係る調整累計額	5	4
その他の包括利益累計額合計	5	4
新株予約権	33	39
非支配株主持分	0	—
純資産合計	9,774	9,933
負債純資産合計	19,574	20,147

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年10月1日 至 2021年12月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年10月1日 至 2022年12月31日)
売上高	7,537	7,718
売上原価	4,744	4,948
売上総利益	2,793	2,769
販売費及び一般管理費	1,523	2,019
営業利益	1,269	750
営業外収益		
受取利息	0	0
業務受託料	0	0
助成金収入	2	1
受取手数料	—	2
その他	2	1
営業外収益合計	6	5
営業外費用		
支払利息	1	1
支払手数料	1	—
その他	0	1
営業外費用合計	2	2
経常利益	1,272	752
税金等調整前四半期純利益	1,272	752
法人税、住民税及び事業税	344	275
法人税等調整額	120	23
法人税等合計	464	299
四半期純利益	807	453
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△3	△0
親会社株主に帰属する四半期純利益	811	454

(四半期連結包括利益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年10月1日 至 2021年12月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年10月1日 至 2022年12月31日)
四半期純利益	807	453
その他の包括利益		
退職給付に係る調整額	△0	△1
その他の包括利益合計	△0	△1
四半期包括利益	807	451
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	811	452
非支配株主に係る四半期包括利益	△3	△0

（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（会計方針の変更）

（時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用）

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。）を当第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することといたしました。なお、これによる四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(セグメント情報等)

I 前第1四半期連結累計期間(自2021年10月1日至2021年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 財務諸表 (注3)
	森塾	湘南 ゼミナール	河合塾 マナビス	計				
売上高								
顧客との契約から 生じる収益	3,785	2,466	823	7,075	462	7,537	—	7,537
その他の収益	—	—	—	—	—	—	—	—
外部顧客への 売上高	3,785	2,466	823	7,075	462	7,537	—	7,537
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	—	—	—	—	13	13	△13	—
計	3,785	2,466	823	7,075	476	7,551	△13	7,537
セグメント利益 又は損失(△)	1,233	564	128	1,925	△137	1,788	△518	1,269

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、「新規事業(研究開発費等を含む)」、「自立学習RED」、「そら塾」、教育関連サービス(フォレストシリーズの販売、「東京ダンスヴィレッジ」、「プログラミング能力検定」の運営)等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失の調整額△518百万円には、のれんの償却額△76百万円、セグメント間消去△2百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△440百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメント及びその他に帰属しない販売費および一般管理費であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第1四半期連結累計期間(自2022年10月1日至2022年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 財務諸表 (注3)
	森塾	湘南 ゼミナール	河合塾 マナビス	計				
売上高								
顧客との契約から 生じる収益	4,025	2,362	774	7,162	555	7,718	—	7,718
その他の収益	—	—	—	—	—	—	—	—
外部顧客への 売上高	4,025	2,362	774	7,162	555	7,718	—	7,718
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	—	—	—	—	18	18	△18	—
計	4,025	2,362	774	7,162	574	7,736	△18	7,718
セグメント利益 又は損失(△)	1,025	469	78	1,573	△275	1,298	△548	750

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、「新規事業(研究開発費等を含む)」、「自立学習RED」、「そら塾」、教育関連サービス(フォレストシリーズの販売、「東京ダンスヴィレッジ」、「和陽日本語学院」、「プログラミング能力検定」の運営)等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失の調整額△548百万円には、のれんの償却額△76百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△471百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメント及びその他に帰属しない販売費および一般管理費であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。